

続・ふるさと こぼれ話

大泥棒の芳志戸左門

第3回

茂木の四郎左右衛門と大谷の城山ながし、そして芳志戸左門という大泥棒がいた。いつも三人組で大金持ちからお金や物を盗んでは、貧しい人に分けあたえていた。

家族の者もかれらが大泥棒だとは、ぜんぜん知らないほど、その仕事ぶりは手際が良かった。いつ出かけて、いつ戻ってきたのか、まったくわからなかったのである。

芳志戸左門は、一反（およそ12m）の木綿を背中から垂らして走っても、木綿の端が地面につかないほど足が速かった。泥棒も早業で、素早い仕事ぶりだった。

あるとき、三人組で日光東照宮の「東照大権現」と書いてある大きな額をはずして盗んだ。その額を舟に乗せて、大谷川を下ってきた。しかし、このときばかりは、川下に

待ちかまえていた追っ手につかまり、御用となつてしまったそうである。

やがて芳志戸左門は、火あぶりの刑になつてしまった。左門の五輪塔だと言ひ伝えられているものが、芳志戸に残っている。



上稲毛田に古墳として残る火ぶり塚

火ぶり塚という小さな山がある。そこは芳志戸左門がほかの二人と連絡を取り合うために、のろしを上げた塚だったといわれている。

編集後記

□待ちに待った6月。鮎釣りが解禁になります。1年で死んでしまう鮎は、晩秋に産卵、ふ化して海へ下ります。春には、体長10cmにも満たない身体で一生懸命に川を遡上して、短くて暑い夏を私たちと一緒に栃木で過ごします。

□私は鮎釣りを始めて7年目になりますが、難しさと奥の深さで年々夢中になり、まさに「鮎中毒」状態です。釣りの楽しさもありますが、川で出会う方々も素敵で、80歳を過ぎたお爺ちゃんも、みんな夢中になつて鮎を追い続けます。

■今年の夏も楽しませてくれるのでしょうか。
(ネタ)

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032
✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
<http://www.town.haga.tochigi.jp>
- 苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898



R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

